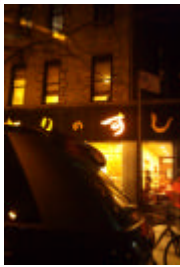


ニューヨークで見たジャパニーズスピリッツ

みなさま、こんにちは！サーマルタンクでお馴染みの新洋技研工業です。いやー、感動しちゃいました！っていきなり何が？と言われそうですが・・・先般初めてニューヨークへ行きました（アメリカにはこれまでに幾度か行く機会はありませんが）ですがニューヨークは御縁がなかったのです。地下鉄に乗ってエンパイアステートにも行き、ソーホー、グラウンドゼロ等々完全におのぼりさんコースを約半日で回りました！で、何に感動したかといえば、もちろんマンハッタンを散策したこともそうですが、今回の目的は、**お酒の神様の導き（??）**で知り合った方のお店に訪問することであり、その方の職人魂に感動したのです。お店の名前は「**ガリのすし**」。オーナーは杉尾雅利さん、通称「ガリさん」。マンハッタンで3店舗を経営、連日満員の超繁盛店です。髪の毛の色も目の色も違う人たちが愉しそうに語り合いながら寿司や刺身を楽しみ、日本酒を味わう姿に、まさに「食に国境はないのだ」ということをまざまざと感じさせられました。ガリさんは徹底して寿司の素材を吟味し、伝統的な日本の寿司を頑なに守りつつ、更に日本人本来の職人技を駆使して進化させた最高の寿司を提供し、お酒は日本中を探し回り、徹底して吟味し納得されたお酒しか提供しません。（ご本人はテイスティング程度しかされませんが）国内の寿司店でここまでグレードの高い店はちよっと探すのが困難ではないかと思われるほどでした。このお店の常連のお客様の中に、お年を召されたご婦人がいらっしやるそうです（もちろんアメリカの方）その方はお店に来られると、本当に美味しそうに「**日本酒を満たした盃に口を運ばれ**」て日本酒を味わうのだそうです。それだけこのお店で提供されるお酒の品質管理が確かであることは言うまでもなく、お店とそこで働く人たちが醸し出す雰囲気や料理の質に、お客様が病みつきになってしまっているでしょう。「忘れかけている日本の心」を遠く離れた地でしっかりと根づき、伝え続けるガリさんとそのお店のスタッフの皆さんに心からの尊敬と益々の繁栄を願い、ニューヨークを後にしたのでした。ガリさん、自らお寿司を握ってくださいあってありがとうございます！最高に美味しかったです！お酒も飲みすぎました！じゅんぺいくん、さくらちゃん（ガリさんの愛犬たち）また会いたいです。

お店の様子



ガリさんです



日本の野鳥シリーズ

キクイタダキって？

技術営業部 佐藤 弘

鳥の種名は主にラテン語表記で世界共通の学名と、各国独自の、即ち我が国なら標準和名がある。他に地方名があるがこれは使わない。論文等は学名を添えて標準和名をカナで表記するキマリになっているから、簡便には違いない。しかしキクイタダキの由来を知らない人は「何それ？」と来る。

これを漢字で表わすと菊戴だ。いつも梢にいるから見る機会が無いが、頭の天辺に菊の花びらをひとひら載せた様な縦線があるからだ。ちなみに頭中央線と呼ぶその色がオレンジならオス、黄色ならメスだ。ウグイスの近縁だから背面がオリーブ色のシックな装いだが、頭中央線のアクセントと黒目がちの愛らしさもあって、鳥キチ達にキクちゃんと呼ばれる人気者だ。

本種は先に登場した薺雨（ヤブサメ）やミソサザイ同様大変小さく、初夏に生まれた鳥をその秋計測すると、全長は100mmに満たず体重が6g台つまり1円玉7枚足らずだ。標高差の移動はするが、渡りと呼べる規模の移動はしないらしい。そして繁殖地の亜高山でも越冬地の平場でも針葉樹林を好む。夏山の本格登山をやる方なら、針葉樹の高みで鳴き交わすか細い高音の早口で、虫の音かと思うさえずりをお聞きの筈だ。

さて、遠い昔に知人の結婚披露宴で祝電を読まされたが、全く初めての経験で電文との格闘だった。あたり前だが全てカナで読点もないから、どこで区切るのか抑揚はどうするか、ハは「は」か「わ」か、あれこれ迷っている内に頭の中はまっ白。それを何通もだからあぶら汗が流れた。事前に漢字とかなに直したメモを用意しておくべきだと知ったのは、間抜けの後知恵というもの。あれ以来白髪が出はじめた（ような気がする）。

ところで、09年11月「日韓共同鳥類標識調査」で6日間滞在した釜山では、目にした漢字は地下鉄駅名の「下端（ハダン）」と、意味がよく分からない和食看板「正通日食」だけで、あとはハングルの洪水だった。あれは表音文字というから「貴社の記者は汽車にて帰社す」をかなで表わす様なもの。内容が祝意に決まっている電文に七転八倒したアツマ悪い私は、かの国の人々の明晰緻密な頭脳に舌をまくばかりだ。でも韓国の皆さん、かなりやせ我慢していませんか？本音のところは。

酒蔵さんとの長ーいおつきあい

取締役会長 大辻 英郎

若い頃には毎晩のように仕事を終えると2~3人で暖簾を潜りおでん、焼き鳥を肴に酒を呑み、興じると馴染みの小料理店へ。午前様で家内に怒られたものです。でもそのワイワイやっている事から人間関係や仲間意識ができ、智恵も出、お客様を口説く策を考えつき、大きな仕事を獲得し社長賞など戴いたりしたものです。日本酒のトックリが何本も倒れたお陰です。良き時代でした。そんな光景はもう来ないでしょうね。それを懐かしむほど私も歳をとったし、世の中も変わった。今はどうしているのか？昔怒られた家内相手に4合瓶の酒を冷やしたり、温めたり、お父さんもう少し飲まない？私もう一杯いただくわと、頗る平和な時を過ごしているのが大方の光景でないだろうか。二年ほど前までは杯をとろうとしなかった姪っ子がこのお酒美味しいね、このお酒好きだわという。どうやら日本酒党を一人増やしてよしよしと思っていたり、隣りのご夫婦にこの酒いま手に入ったからと、4合瓶を進上すると美味しかったと両方からお礼がくる。4合瓶の酒の時代かと思う。4合瓶の中には造り手の心も満ちている。その為に飲む方も「心」に沁み込み満足する。ただし家で飲むには4合瓶に2~3千円は財布がもたない。そこで期待するのは造り手の社長さんの心を生かした「愛の智恵」が瓶のなかに満ちている事であろうか。

全国の酒蔵さん、どうか新洋技研をよろしく願ひ申しあげます。

おわり。

物騒なことを考えていた

モツセイ

生産部主任 島貫 修一

突然の出来事に室内の空気が凍り付いてしまった。バス会社の営業所の待合室でバスを待っていたら、40代の男性が入ってきて奥のカウンターへ向かい、女性職員と話を始めた。会話の内容からバス会社とトラブルがあったらしく、不満をぶつけるような口調だった。そして何かを受け取りバッグに収めたので直ぐに帰ると思っていたら事態は急変した。こぶしでカウンターをバンバン叩きながらバス会社の対応を非難し（罵るに近い）、どんどん興奮して大声になっていく。待合室の乗客達はこの男性をじっと見つめたまま固まってしまったが、その時考えていたことは、

「この男の右後ろ約4mの位置に居る」「もしも暴力を振るったら直ぐに飛び掛かれる」「振り上げている男の右手の手首をひねり、身体を沈めるように右に半回転しながら上体を床に押し付け、右腕をねじり上げて右肩を押さえてしまえばケガをさせずに取り押さえられる」「刃物を持っていたら膝関節に背後から横蹴りを入れて仰向けに倒し、間髪を入れず顔をおもいきり蹴ろう」「かなりのケガを負わせるが、刃物を持った相手になら正当防衛になるだろう」。などと頭の中でシミュレーションしていたら、言うだけ言って満足したのか、荒々しく足音を響かせながら待合室を出て行ってしまった。

室内はしばらくの間は静寂だったが、やがて何事も無かったようにおしゃべりに包まれた。女性職員は感情的な暴言にも動ぜず、最初から最後まで冷静沈着に対応しており、男の一人芝居だけで済ませることができた。出番が無くて良かった。

ちょっと豆知識 その8

この度の東北関東大震災で被災されました皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

当地新潟におきましても、2004年の中越地震、2007年の中越沖地震を経験し、多くの清酒メーカーが甚大な被害を受けられました。廃業を余儀なくされたメーカーが一社もなかったのは、まさに奇跡と言えるでしょう。特に2004年の地震は、被災された製造場がおよそ40場にのぼり、清酒出荷の最盛期を目前としての被災、また、マスコミに大々的に取り上げられた震災でもあったことから、多くの教訓を残しました。

そうしたことから、「一過性の出来事として片付けることなく、詳細に記録を整理して今後の防災のために役立てる」ことを目的に、新潟県酒造組合の事業として、県内の酒造技術者で構成する「新潟清酒研究会」なる組織が実務を担当し、「被災・復旧・そして未来へ 2004.10.23 中越大震災の記録 新潟清酒メーカーからの提言」という冊子をまとめ、2006年5月に刊行しました。

当時私は新潟県内で酒造技術者として働いており、幸いにしてこの記録集の編纂に携わりました。

今回の地震後、何か参考に出来るものがあるのではないかと思い、当時の記録集を引っ張り出して改めて見直してみました。地震の規模や被害の種類・甚大さなど、中越地震とは単純に比較できない今回の地震ですのでどれくらい役に立つかわかりませんが、復旧・復興の一助になればと思います（注：本稿を書いている時点で東北エリアへの発送可否は未定）内容の一部をご紹介します。

- ・土蔵の被害が大きかった。瓦屋根で重心が高いことが一因か。また、土壁が崩れてモロミ等に落下し、モロミを廃棄せざるを得ないケースがあった。
- ・社員の安否確認に手間取った。これ（中越地震）を機に社員の安否確認用連絡網、あるいは大規模災害時の初動ルールを整備した。
- ・揺れによりタンクが沓石から滑り落ちて底部を破損し、廃棄する羽目になったという事例が多数報告された。沓石へのアンカー留め、あるいは連木が有効。
- ・風評被害を防ぐため、公式見解を迅速にお客様（卸・小売・消費者）に伝える必要性を痛感した。「あの蔵は再起不能」的なデマはあっという間に広まる。

自粛ムードが蔓延すると、復興に必要な費用が捻出できないという事態に陥りかねません。「過度な自粛」は自粛したいものです。文責：技術営業部 成田 護